

★スズメバチ刺傷事故防止

取組

ポイント1

安全教育を徹底する。

- 児童等に対し、スズメバチは大変危険な生き物であり、特に、9月から10月にかけて繁殖の時期を迎え攻撃的になることを十分に理解させる。
 - 巣にいたずらをしたり、近づいたりしないよう指導を徹底する。
 - 巣を見つけたときには、直ちに教職員へ連絡するよう指導する。
- 《野山に出かけるときの心がけ》

- ・長袖、長ズボンによる肌の保護が基本。
- ・スズメバチは黒い部分を襲う習性があるので、白や黄色等の服や帽子を着用することが望ましい。
- ・殺虫スプレーを携帯すること。(虫除けスプレーは全く役に立たない。)
- ・一人だけの行動は避け、複数で行動すること。ただし、あまり大きな集団になると、振動や動きでハチを刺激する危険が増すので注意すること。
- ・化粧品や香水には、スズメバチに攻撃行動をもたらす成分が含まれている場合があるので、使用は控えること。

ポイント2

安全管理を徹底する。

- 日頃の安全点検時に、軒先や天井裏、大きな木の空洞などに蜂の巣がないか確認する。
- 巣を発見した際には、管理者(教育委員会・河川管理者・道路管理者・土地所有者等)へ速やかに連絡し、駆除を依頼する。
- 遠足など野外で集団活動等を行う場合は、下見等を実施し、安全を確認する。
- 健康診断表等で、ハチ毒アレルギー体質の児童等を把握する。

ポイント3

緊急時に常に備える。

- 刺傷事故発生時の応急措置等について共通理解する。

- ・冷たい水で患部を洗い流しながら、毒と血液を絞り出す。
 - ・痛みや腫れがある場合は、氷や保冷剤などで冷やす。
 - ・直ちに医療機関へ搬送する。(救急車を呼ぶことをためらわない。)
- ※口で毒液を吸い出すのは危険なので絶対しない。

- アナフィラキシーショックについて理解を深める。

【アナフィラキシーショックとは?】

ハチ毒や食物、薬物等が原因で起こる急性アレルギー反応のひとつ。

【症状】

じんましんや皮膚が赤くなる等の皮膚症状や、ときに呼吸困難、めまい、意識障害等の症状を伴うことがあり、血圧低下等の血液循環の異常が急激にあらわれるとショック症状を引き起こし、生命をおびやかすような危険な状態に陥ってしまうことがある。

【処置】

安静を保ち 1秒でも早く医療機関(可能であれば専門医)を受診する。